

製品の機能が十分発揮されるように、この施工説明書の内容にそって正しく取付けてください。

安全のため必ずお守りください

取付けの前に、この「安全上の注意」をよくお読みの上、正しく取付けてください。

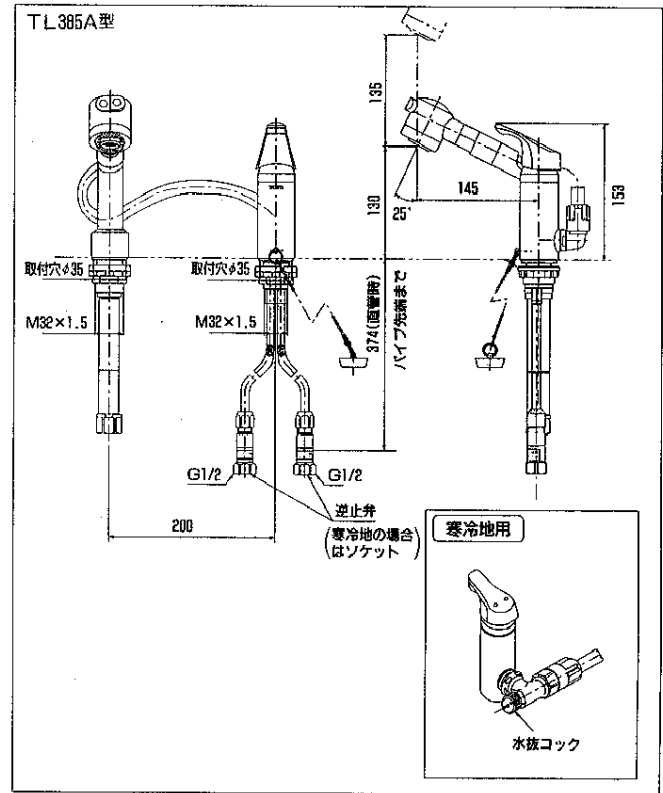
- この説明書では機器を安全に正しく取付けていただくために、必ずお守りいただくことを、△注意の表示によってお知らせしています。

△注意 この表示の欄の内容を無視して誤った取付けをすると、傷害または、物的損害が発生する可能性があることを示しています。

△注意

- (1)湯水を逆に配管しないでください。
水を出そうとしても、湯が出てやけどをすることがあります。
- (2)凍結が予想される際は、水を抜いておいてください。
凍結破損で漏水し、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。(寒冷地用)

完 成 図



使 用 条 件

1. 使用水圧

(1)瞬間型給湯機と組み合わせる場合

給水圧力 { 最低必要水圧(下表参照)
最高圧力………0.74MPa(7.5kgf/cm²)

器具入口部における最低必要水圧 (MPa(kgf/cm²))

給湯機タイプと号数		最低必要水圧
能力手動切替タイプ	12号	A+0.55 {5.5}
比例制御タイプ	TOTO カスタム制御方式	0.09 {0.9}
	10号	
	16号	
	TOTO トリコン制御方式(トリコン・コンタクト・アクティ)	0.06 {0.6}
	16号	
	20号	
	24号	
	アクティ	0.04 {0.4}
	スーパーアクティ	
	32号	0.06 {0.6}
TOTO ハイトリコン制御方式	21号	0.06 {0.6}
24号		
TOTO コマンド	16号	0.05 {0.5}
24号		
TOTO ハイコマンド	21号	0.05 {0.5}
24号		

注) 表中のAは給湯機の最低作動水圧を示します。
(比例制御タイプにはこの数値が含まれています。)

(設定条件)

- レバーハンドルは中央の位置で全開
- 吐水は勢流吐水
- 吐水温度: 38℃
- 給湯配管長さ: 5m
- 給湯機が着火する下限の圧力とする。
- 水温の高い(25℃) 夏期に着火させることを想定。
- 能力手動切替タイプの出湯温度は最高温度に設定。
- 比例制御タイプの出湯温度: 60℃

*能力手動切替タイプで水温が高く着火しにくい場合は、能力を小さく切替えると着火しやすくなります。

(2)貯湯式温水器と組み合わせる場合

給水・給湯圧力 { 最低必要圧力……0.05MPa(0.5kgf/cm²)
最高圧力………0.74MPa(7.5kgf/cm²)

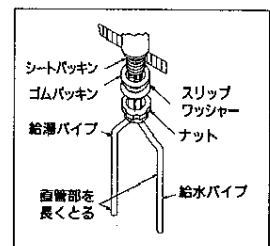
給水圧力は給湯圧力より必ず高くするが同圧になるようにしてください。

2. 給湯に蒸気を使用しないでください。
3. 湯・水を逆配管しないでください。
給水パイプには○ラベルを、給湯パイプには△ラベルを貼付けています。
なお給湯機からの給湯管は抵抗を少なくするため最短距離で配管し、配管には必ず保温材を巻いてください。
4. 水勢の調節及び器具の点検を容易にするために、必ず別途止水栓をご用意ください。

器 具 の 取 付 け

1. 給水管内の清掃
器具を取付ける前に必ず給水管内のごみ、砂などを完全に洗い流してください。
2. 本体の取付け

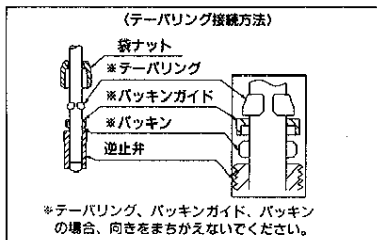
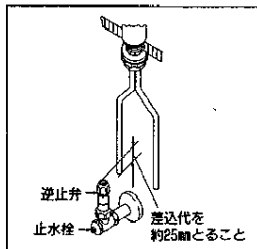
- (1)混合栓本体が正面を向くように仮固定し、給水・給湯パイプを止水栓の取出し位置に合うように曲げ広げてください。このとき、できるだけ直管部が長くなるようにしてください。また、給水・給湯パイプがつぶれないように注意してください。



②逆止弁を止水栓に仮固定した後、給水・給湯パイプの必要長さをあたり切断してください。このとき、パイプの差込代は約25mm確保してください。

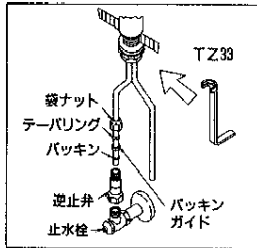
③給水・給湯パイプに袋ナット、テーパリング、パッキンガイド、パッキンの順に入れて、逆止弁を差込んでください。次に逆止弁を止水栓にねじ込み、混合栓本体を本固定してください。固定には別売りの締付専用工具(TZ33)を利用して確実に締付けてください。

※混合栓本体を固定するときは、取付穴周囲の汚れを取り、セパレート紙をはがしてください。



④最後に給水・給湯パイプを逆止弁に押しつけ、手締後1回転以上締付けてください。

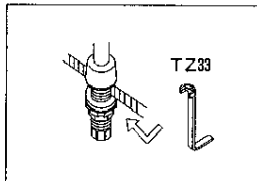
(注)給水・給湯パイプの抜け防止のため、給水・給湯配管は動かないよう確実に固定してください。



⑤シャワー台座の取付け

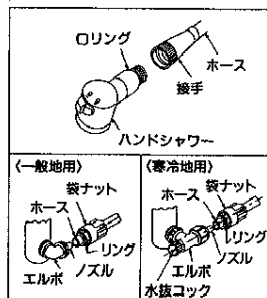
固定には別売りの締付専用工具(TZ33)を利用して確実に締付けてください。

※シャワー台座を固定するときは、取付穴周囲の汚れを取り、セパレート紙をはがしてください。

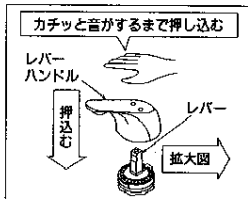


⑥ホースの取付け

右記の図はホースとハンドシャワー及びホースと本体後側エルボとのつなぎ方を示しています。各、締付けは手締めにて締付けてください。尚、ホースは別紙の「ホース取付要領書」に従ってお取付けください。

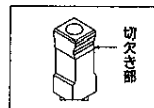


レバーハンドルの取付要領



このレバーハンドルは、ワンタッチで取付けることができます。

ご注意



レバーハンドルとレバーの切欠きとの方向性に注意してください。

正面からみてレバーの切欠きは、両サイドにあります。

万一方向をまちがえて取付けた時は、ハンドルを一度引抜いて方向を合わせて再度押込んでください。

最後に、レバーハンドルが容易に抜けないことを点検してください。

使用上の注意

この商品は、ウォーターハンマー低減機構を採用しております。

レバーハンドルを速く操作しようとすると、抵抗感が発生し重く感じることがありますが故障ではありません。

万一、レバーハンドルがロックして、水が止まらなくなった場合は、一度全開にして、再度ゆっくり閉めてください。

寒冷地用水抜方法

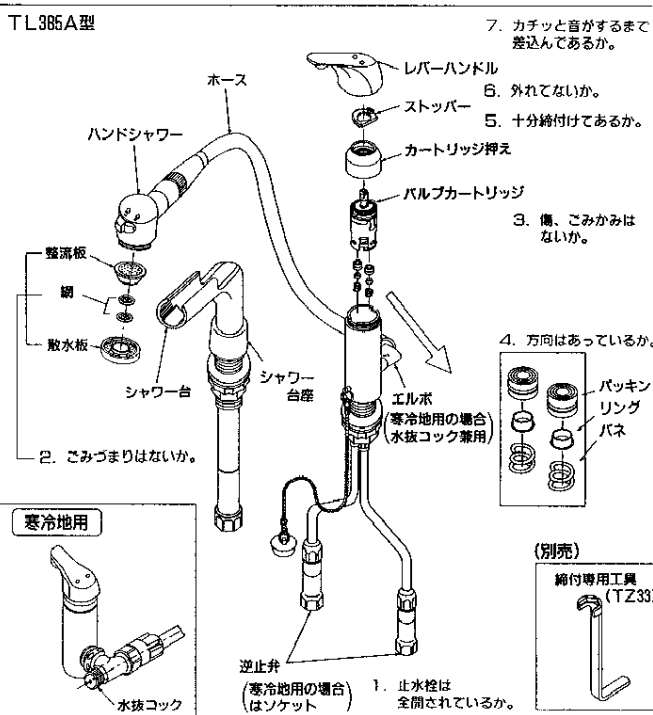
寒冷地用の場合は器具内の水を抜くため、水抜コックを設けております。凍結のおそれのある時期に施工された場合は、水抜栓の操作と合わせて次の要領で水抜きしておいてください。またお客様にも水抜方法をご指導ください。

①レバーハンドルを中央位置(湯側・水側の中間)で下げる。

②本体後側の水抜コックを開いて水を抜いてください。

③ハンドシャワーを取り出しホース内の水を抜き、さらにハンドシャワーを振って中の水を抜いてください。

※水抜き後は必ず水抜コックを強く締めてください。



お 手 入 れ

器具がいつまでも美しさを保つように、お客様にお手入れ方法をご指導ください。

- ふだんは柔らかい布でふき、ときどきミネラル油やカーワックスなどをしみこませた布でふくこと。ただし、樹脂部に付着すると光沢を失うので付着しないよう十分注意すること。
- クレンザーやみがき粉など粗い粒子を含んだ洗剤やナイロンたわしなどは使用しないこと。
- 酸性洗剤はめっきを侵しますので使用しないこと。もしタイルを酸性洗剤で洗った場合は、すぐにタイル及び器具を十分水洗いすること。

分 解 と 点 検

取付後、万一故障した際は、次の要領で分解および点検を行ってください。

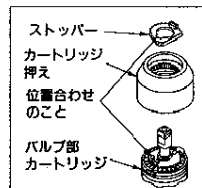
ご注意

バルブ部カートリッジ内部は精密加工された特殊セラミックバルブを組立調整しておりますので、絶対に分解しないでください。

現象	点検項目
吐水量が少ない。	1、2
水が止まらない。	3、4、5、6
吐水温度不良。	1、2
ハンドルがガタつく。	7

点検時の注意

カートリッジ押えは、手締めにて締め付け、工具は使用しないでください。再セットされる際に、ストップバーを組込むときは、カートリッジ側凸部とストップバー側凹部を合わせて押込むこと。その際カートリッジ押えの内側の歯と、ストップバーの外側の歯が合わない時は、カートリッジ押えを締め込む方向にて歯を合わせる様に調整してください。



再生紙を使用しています。

※同梱の取扱説明書は、必ずお客様にお渡しください。手渡できない場合は、工事完了後ハンドルなどに吊り下げておいてください。